

### 【短報】京都府におけるコセスジゲンゴロウの採集記録

コセスジゲンゴロウ *Copelatus parallelus* Zimmermann, 1920 はゲンゴロウ科コセスジゲンゴロウ属の水生甲虫である。本種は 1920 年に摂津（大阪府と兵庫県にまたがる地域）から記載された。その後の採集記録は、1944 年における大阪府の淀川河岸での記録（大倉, 1957）と、2000 年と 2004 年における滋賀県の安曇川流域での記録（西城・初宿, 2004）のみである。筆者は 2012 年 7 月に京都府の宇治川河川敷で本種を採集したので報告する。本種は大阪府レッドデータブックでは情報不足、滋賀県レッドデータブックでは絶滅危機増大種に指定されている（大阪府, 2000；初宿, 2011）。

2♂♂, 5♀♀, 京都府京都市伏見区, 1. VII. 2012, 村上大介採集・標本保管。

採集地は宇治川河川敷にできた水たまりである。水たまりは草丈が 2m を越すヨシ *Phragmites australis* やオギ *Miscanthus sacchariflorus* に囲まれて半日蔭となっており、水域内にはヨシやスゲ属の一種 *Carex* sp. が繁茂していた。水深は深い箇所では 50cm ほどであった。本種が採集された箇所は水深が 20cm 未満以下の岸際で、泥や植物枯死体が主な底質であった。本種とともにホソセスジゲンゴロウ *C. weymarni*, カムムリセスジゲンゴロウ *C. kammuriensis*, チビゲンゴロウ *Guignotus japonicus*, ミズムシ *Asellus hilgendorfi*, アメリカザリガニ *Procambarus clarkii* といった水生生物が少数採集された。

採集前の 6 月 20 日ごろ、採集地付近では台風の影響に伴って大雨が降り、宇治川の水位は台風時の前後と較べて 4m から 5m ほど上昇していた（気象庁, 2012；国土交通省, 2012）。採集後の 7 月 20 日に再び採集地を訪れたところ、水たまりは消滅し陸地となっていた。本種が採集された水たまりは、台風時における降雨や河川の増水によって一時的に形成されたものであった可能性が高い。

滋賀県における本種の採集地は、河川流量の増加により冠水したヨシ帯であった（西城・初宿, 2004）。ヨシなどの植物が多い一時的な水域であるという点で今回の採集地と共通している。

環境科学大阪株式会社の森正人氏に本種の生息環境について御教示頂き、文献を御紹介頂いた。株式会社ラーゴの牛島積広氏、滋賀県立大学環境動物学研究室の中西康介氏に本稿の執筆にあたり御助言を頂いた。末尾ながら厚くお礼申し上げる。

#### 引用文献

大倉正文, 1957. *Copelatus parallelus* Zimmermann コセスジ



図1-3. 京都府産コセスジゲンゴロウ。1, 背面図；2, 雄交尾器中央片, 側面；3, 生息環境。

- ゲンゴロウについて。昆虫学評論, 8 (1) : 22.  
 大阪府, 2000. コセスジゲンゴロウ。大阪府における保護上重要な野生生物, p. 246. 大阪府環境農林水産部 緑の環境整備室, 大阪。  
 気象庁, 2012. 気象統計情報。http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html (2012年7月10日確認)。  
 国土交通省, 2012. 水文学質データベース。http://www1.river.go.jp/ (2012年7月10日確認)。  
 西城 洋・初宿成彦, 2004. コセスジゲンゴロウを約 60 年ぶりに再発見。ねじればね, 111 : 7-8。  
 初宿成彦, 2012. コセスジゲンゴロウ。滋賀県で大切にすべき野生生物 (滋賀県生きもの総合調査委員会編), p. 391. 滋賀県自然環境保全課, 大津。

(村上大介 521-1341 近江八幡市安土町上豊浦 1450-2-7-301)